

足立区立桜花小学校

学校長 岡戸 良雄 様

足立区立桜花小学校 開かれた学校づくり協議会

平成26年度 学校関係者評価書

1. 自己評価書全般について

【総括】○桜花基礎学習教室のあり方について、保護者も目的、内容、運営方法等を確認していくとよい。基礎学習教室が何を目指し、どのように取り組みを進めているか、保護者に周知する必要がある。

○桜花の子どもたちに継続は必要。基礎学力定着については最重要課題である。

○あいさつは「進んで」行っているかは、数値的に差があるのではないか。あいさつ応援隊等の取り組みを通じて感じるのは、「進んで」あいさつできる子どもは多くはない。

○「桜ばれっと」での子供たちの言葉づかいが気になる。丁寧な言葉づかいをさせることが必要。子供たちを取り巻く言語環境を、地域、学校が協力してよりよく整えていく必要がある。

○子供たちだけではなく、保護者の挨拶力が弱い。今後は、PTA、学校が協力して保護者への啓発がもっと必要である。

○小中連携については、小学校での頑張りを中学校へつなげたい。高校中退者が多い現状を考えるとなおさらである。

○協議会として、これからも子供の特性を活かす教育を推進していく。

2. 学校から提示された「課題」や「保護者・地域への期待」について

【体力の向上について】

・欠席者数や遅刻の数には、朝起きられないことに原因はある。早寝・早起きが身につくよう生活リズムを整えることが必要である。これは、家庭の役割である。家庭力が向上するような取り組みが求められる。

【欠席者数について】

・土曜日授業での欠席者数については、学習ボランティアで様子を確認したが、通常の日も多いのは病気や体調不良だけではないだろう。朝、学校へ送り出すために家庭の協力、努力は欠かせない。働きかけは必要。

【家庭学習習慣について】

・家庭学習の習慣は大切。宿題を「桜ばれっと」の場においてやっていく子もいる。ドリルの答えをそのまま写している子もいる。家庭学習での質に差がある。宿題の出し方や内容を工夫していくことが必要ではないか。

・学校の課題は頑張ってやっているが、発展的な学習がなかなかできない。安易に回答を求めていくだけではなく、調べ方や探究心を育てるような取り組みを考えていく必要がある。

【保護者への啓発について】

・なぜこの取り組みを行っているか、保護者も広く理解する必要があるのではないか。「桜

- 「花基礎学習教室」や「桜ぱれっと」が何を目指してどのような子供を対象としているか、年度初めに、毎年説明し理解を求めるのが大切ではないか。
- ・保護者会で情報を共有することが大事なので、保護者会の持ち方を工夫していくとよい。

3. その他

- 桜花基礎学習教室や土曜授業学習ボランティアの協力体制の組み方については一考の必要性がある。
- 参加児童の出席数が低下している。参加児童の個人差が大きいが、次年度の運営についてはどのように取り組みを進めるのか。
- ⇒学校全体の授業力向上があつて、そのうえで必要な児童に基礎学力の定着を浸透させることが重要である。授業力向上については「授業スタンダード」の定着を進めていく。学習指導の基礎基本をしっかりとさせたうえで、教師一人一人に個性を生かした授業を展開させていく。基礎学習教室については、区学力調査結果のデータやステップアップテスト等の分析から対象児童をピックアップし、一人でも多くの参加者を募りたい。10月から国語に内容をシフトしてきた。「読み取る力」が全校的な課題であるため、4月16日の区学力調査の結果を分析し、桜花基礎学習教室の教材や進行について見直しを行う。
- ⇒桜花基礎学習教室の指導に携わる地域、保護者に皆様には基礎学習教室のねらいと進め方について理解をしていただいた上で協力をお願いしたい。また、教材の準備等についても御協力可能な方には、学校から依頼したい。

(校長回答)